

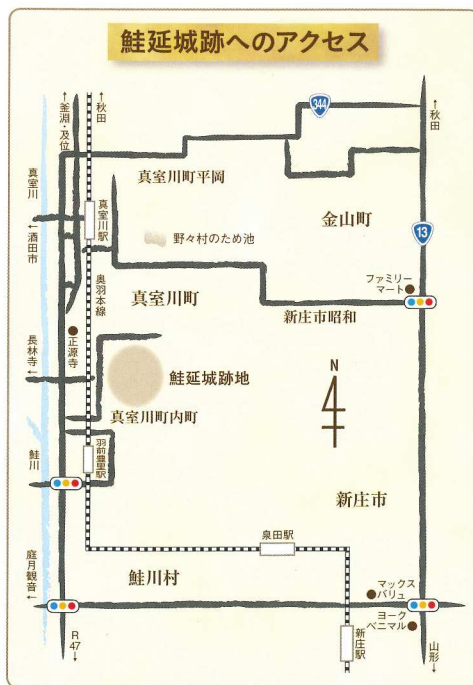
鮭延氏(佐々木氏)略歴

文明 8年(1476) 佐々木綱村、近江国より下り仙北小野寺氏の関口の番城を預かる
天文 4年(1535) 貞綱のとき、戸沢村岩鼻に入る この頃、鮭延城を築く
永禄 5年(1562) 秀綱誕生
永禄 6年(1563) 庄内武藤氏より岩鼻楯を攻められる 秀綱2歳で武藤氏の人質となる
天正10年(1582) 秀綱21歳のとき、庄内から戻り鮭延城主となる
天正13年(1585) 最上義光による鮭延城攻めの後、最上家の家臣となる
元和 8年(1622) 最上家改易 秀綱、老中土井利勝の預かりとなる
元和 9年(1623) 秀綱罪を許され、下総国佐倉藩(千葉県)へ、五千石を賜り土井利勝の客人となる
寛永10年(1633) 土井利勝の古河藩(茨城県)転封に伴い、秀綱も移る
正保 3年(1646) 秀綱没する(享年84歳) 家臣14名が土井家に仕官する
慶安 元年(1648) 秀綱の菩提寺として鮭延寺が建立される(茨城県古河市)



鮭延城跡から真室川町を望む

- 🌸 JR真室川駅から 車で5分 徒歩15分
- 🌸 JR羽前豊里駅から 徒歩10分



真室川町指定史跡

鮭延城跡



鮭延城は別名「真室城」とも言われ、近江国(現在の滋賀県)出身で最上地域の北部を治めた鮭延氏の居城でした。

天文4年、鮭延貞綱が真室郷に城を築きました。その息子である秀綱のときに最上義光による鮭延城攻めが行われましたが、城を落とすのに2年を要し、その堅固さから北の要害と名を轟かせました。

最上家の家臣となった秀綱の活躍はめざましく、長谷堂合戦で上杉の山形侵攻をくい止め、後に家老になりました。

元和8年の最上家改易に伴い、鮭延秀綱は老中土井利勝の預かりとなり鮭延城を去りました。

元和9年に新庄藩祖戸沢政盛が仮城として鮭延城に入りましたが、3年後、沼田に築いた新庄城に移り、廃城となりました。

平成7年3月30日、町の史跡に指定されました。

発行 真室川町教育委員会

山形県最上郡真室川町大字新町 233-1

TEL0233-62-2305/FAX0233-62-2306

真室川町教育委員会

鮭延城跡 周辺マップ

モデルコース

- Aコース** 大手門口 ⇒ 曲輪 ⇒ 井戸跡 ⇒ 虎口 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸
Bコース 搦手門口 ⇒ 帯曲輪 ⇒ 搦手門口 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸
Cコース 薬師堂入口 ⇒ 薬師堂 ⇒ 堀切 ⇒ 搦手門 ⇒ 大手門 ⇒ 本丸

①曲輪 (くるわ)

城の区画。傾斜地を掘って水平にしている。

②敵堅堀

斜面に上下方向に設けた堀。

③堀切

空堀の一種で、敵の侵入を防ぐため掘削した東の守りの拠点。ここでは三重に掘られている。

④虎口(こぐち)

城の要所にある出入り口。枡形の仕切りをもち、その中を曲折して出入りした。

⑤搦手門 (からめてもん)

城の裏門で有事の際はここから城外へ逃れた。

⑥矢竹

矢軸の材料として使用された。

⑦サイカチ

マメ科の落葉高木。豆果は石鹸の代用や薬として用いた。

⑧帯曲輪 (おびぐるわ)

城の山腹に付けた細長い曲輪で、搦手門口には広大な跡が見える。「馬場」とも言われた。



⑨堀井戸跡 (通称:すず)
城の水源。水量が少なく、最上氏の鮭延城攻めの際、兵糧攻めを受けた鮭延軍が沼までおりて奇襲を受けたという。〔奥羽永慶軍記〕より



⑩御前壇 (ごぜんだん)
初代新庄藩主戸沢政盛公の正室、真室御前の墓所。鮭延城を仮住まいとしていた時に死去し、当地に葬られた。のちに墓所は、新庄市太田(焼け寺跡)に移された。



⑪平岡館 (ひらおかだて)
柿崎能登守の居城。幼少から鮭延秀綱に仕え、最上氏の改易後は、秀綱に従い土井氏預かりとなる。
その子息の1人は修験者となり、平岡の地に光明院を建立。武蔵国から板碑を持参したと伝えられる。



⑫陣場跡 (じんばあと)
天正13年、最上氏が鮭延城を攻めた際に築いたもの。北陣場と南陣場があり、北陣場後方に本陣と思われる堀がある。南陣場は延沢能登守の陣跡で、俗に延沢陣といわれている。



⑬看経森 (かんきんもり)
天正13年、最上氏の鮭延城攻めの際、最上・鮭延両軍の討死者を合葬した墳墓。毎年彼岸会を開催していた。



⑭井上將監綱安戦没碑
鮭延秀綱の弟綱知の男で、天正13年(碑には「9年」)、最上氏の鮭延城攻めで戦死した。その後、綱知が井上將監を名乗る。



⑮三弘山正源寺 (さんこうざんしょうげんじ)
天正18年5月、鮭延氏の菩提寺として建立した。正面の大きな山門は、元は湯殿山大日坊の総門であったものを昭和36年に移築したもので、平成元年に町の文化財に指定。また、国の重要文化財「土偶」が安置されている。
境内裏手に貞綱・秀綱公の墓所がある。
(上段写真:山門)
(下段写真:墓所)



⑯オクミ館 (おくみたて)
臈病館、御組館ともいわれ、鮭延氏の足軽与力などが居住した小丘地。当時は物見槽があり、時刻などを知らせる鐘があったとされる。

⑰薬師堂 (やくしどう)
ここに安置されている如来像は、鮭延氏の近江国からの持念仏とされる。領内に疫病が流行った時に人々に拜ませたところ、たちどころに治ったといわれている。白鳳文化の特徴をとらえている。
昭和62年に国の重要文化財に指定。
(写真:銅造如来倚像)

